

(その四)

工場又は事業場の名称	アズマックス株式会社 千葉工場
------------	--------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
<input checked="" type="radio"/> C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

昨年度は大幅な生産量増加の為、計画値を超過してしまいました。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	興亜硝子株式会社 市川工場
------------	------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成22年度以前	平成27年度	平成30年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある)。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

(1) 計画年度(H30年度)VOC排出量の削減
①H30年度の塗料の使用量は、対基準年度(160t)に対して実績使用量は220tでした。 H30年度計画(220t)に対して、実績(220t)で計画通りでの実績となりました。
②VOC排出量につきましては、H30年度計画(110t)に対して、実績(110t)で計画を達成することができました。
(2) 原単位指標でのVOC削減管理：(VOC排出量/塗装通過本数)
H30年度の原単位指標では、計画20%削減に対して、実績40.8%で達成することが出来ましたが、更なる改善に努めます。
現行では、水性塗料での稼働を今年度より始め、量産品や新製品に対応し、生産効率の向上による塗料使用量の削減塗装ガン設定での塗料吸着効率の向上、塗料余材の削減他)も含め VOCの削減に努めます。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	タカラスタANDARD株式会社 千葉第一工場
------------	---------------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

生産数が対前年105%の伸びに対し、使用量は111%、排出量は110%と、
生産数の増加以上に増えてしまった。
生製品の異物不良増加に伴い、洗浄・清掃を徹底したことによるものと思われる。
不良率を低減すると共に溶剤管理の徹底により使用量・排出量を削減する。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	タカラスタンダード株式会社 千葉第二工場
------------	-------------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。)	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。)	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

--

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	信和産業株式会社本社工場
------------	--------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
<input checked="" type="radio"/> B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

VOC処理装置の測定値が改善されました。
今後、定期的にメンテナンスを行い、排出量削減に努めていきます。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	株式会社日商グラビア
------------	------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	日鉄日新製鋼建材株式会社 本社製造所 鋼板工場
------------	----------------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる(一部に課題がある。)	削減目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)	計画年度の目標を概ね達成できた(一部に課題がある。)
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

ステンレス箔生産設備の一つである脱脂洗浄施設(脱脂クリーニングライン)において溶剤(ジクロロメタン)を使用している。
2017年6月溶剤回収装置の活性炭エレメントを劣化更新して以降、これまでのところ高い溶剤回収率を維持できておりVOC排出量目標を達成できた。

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。

(その四)

工場又は事業場の名称	株式会社日立産機システム 習志野事業所
------------	------------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1)の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成 2 1 年度以前	平成 2 2 年度	平成 2 3 年度以降
Ⓐ	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
Ⓑ	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
Ⓒ	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がⒸの場合は、必ず記載すること。

(その三)

工場又は事業場の名称	株式会社パールマネキン パールデポ関東流通センター
------------	------------------------------

(2) 揮発性有機化合物の排出等の抑制のための対策

(1) の計画年度の削減率を達成するために実施した対策について、自主的取組計画書の別表から該当する記号を選んで記載すること。複数の対策を組み合わせて実施した場合は、全ての対策について記載すること。

対策 1	対策 2	対策 3	対策 4	対策 5	対策 6	対策 7	対策 8	対策 9	対策 10
1 9	2 1	2 2	2 3	2 9	3 3	5 2	9 1	9 4	

その他(19, 29, 39, 49, 59, 99)を選んで記載した場合は、対策の内容を次の欄に具体的に記入すること。

<p>・エコラッカー・エコシンナーの使用比率の増大により、有害物質の排出を抑制。 労働安全衛生法にも準拠する作業環境を整えている。VOCの排出量は、なかなか削減できずにいるのが現状である。2018年10月よりPRPR物質を含んだ溶剤を一部使用しているが、環境負荷も勘案して、最小限の量に止めている。</p>
<p>・同系色調達による抑制。 下塗りと上塗りとは同系色の物を調達することで、塗膜を薄化し、使用量を削減。</p>
<p>・透ける塗料の作業工程に工夫を加える。 不透明な近似色下塗りで、塗装回数の削減を図り、塗料の使用量を抑える。</p>
<p>・洗浄用シンナーの廃棄を抑制。 色の薄い物から濃い物への生産順序にて、洗浄回数と量を削減する。</p>
<p>・返却商品への養生の徹底により、塗料を使用せずに出荷する割合を増やす。</p>
<p>・海外生産品については、極力現地での塗装を生かし、そのまま出荷する。</p>

(その四)

工場又は事業場の名称	株式会社 パーレマネキン パーレデポ 関東流通センター
------------	--------------------------------

(3) 自主的取組実績の評価

ア (1) の計画年度における削減率についての進捗状況及び達成状況の評価

評価	計画年度の属する年度		
	平成21年度以前	平成22年度	平成23年度以降
A	目標年度の目標達成に向けて順調に進んでいる。	削減目標を達成できた。	計画年度の目標を達成できた。
B	目標年度の目標達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある。）。	削減目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。	計画年度の目標を概ね達成できた（一部に課題がある。）。
C	目標年度の目標の達成に困難な課題がある。	削減目標の達成に困難な課題がある。	計画年度の目標の達成に困難な課題がある。

備考 評価の欄は、該当するものを○で囲むこと。

イ 課題と対策

<p>・労働安全衛生法に対応し環境被害・健康被害の抑制に心がけています。</p> <p>・業務遂行の上で、VOCの削減は困難な面もありますが、溶剤・塗料をPRTRや特化則に抵触しない組成のものへ転換を図っています。</p> <p>・業界の特性～リース物であるため、商品回転が宿命～という事情により、作業性を考えると、より安全な水性塗料または、弱溶剤性塗料への移行は難しいのが、現状ではあります。</p> <p>・また、環境保守に逆行するようではありますが、今年度は、塗装者の使いやすさや、価格の安さも勘案して、一部にPRTR対応でない溶剤も混ぜての塗装を行っています。ですが、今後とも、トルエン・キシレン・エチルベンゼンなど含有しない、いわゆるエコ塗料の使用比率を増大せせる事を核に、塗料自体の使用量も減らすべく様々な手法を取り入れながら、生産に従事し、環境負荷の軽減・健康負荷の軽減に尽力して参ります。</p>
--

備考 この項の記載は任意であること。ただし、アの評価の欄がCの場合は、必ず記載すること。